



Development of Participatory Community Building Model in Japan

A Case of Local Goals in Kurobe City



Noriaki Koshiba, Social Welfare Council of Kurobe City
Sachiko Kamakura, Impact Management Lab.
Kyoko Ichikawa, Tokai University
Masako Hasegawa, CSO Network Japan



Community background and project outline

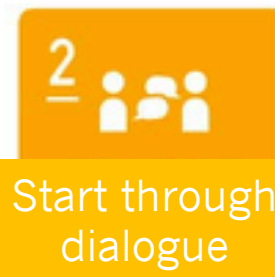


Increase of needs

Lack of local players



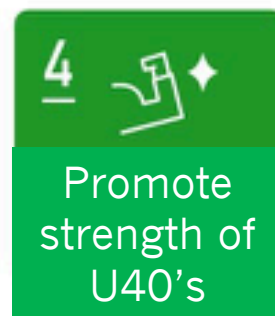
Increase actors



Start through dialogue



Welfare for all



Promote strength of U40's



Achieve through partnerships



5 GOALS for 黒部



CIC's speaking tour in Jan. 2020



～横浜市立大学エクステンション講座～

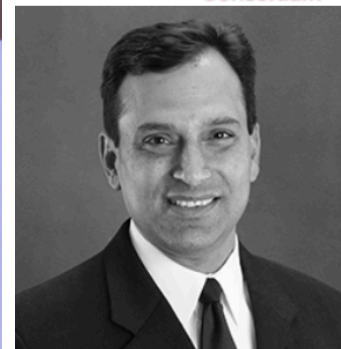
地域指標を活用した 住民参画型の 持続可能な地域づくり

米国からの学びと日本の挑戦

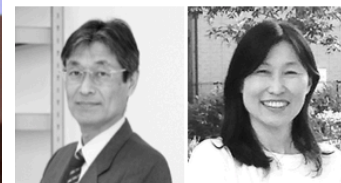
SDGs（持続可能な開発目標）の地域への応用として、地域課題を踏まえた地域目標策定の動きが始まっています。地域での取り組みを進めるためには、課題や目標を地域内で共有し、成果指標など取り組みの可視化が有効であり、参画を促す仕組みが重要だと思われます。

本講座では、米国を中心に指標を活用した地域づくりを推進している“コミュニティ・インディケーター・コンソーシアム”によるウェブサイトを活用した参画型プログラムを紹介し日本における同種の取り組みの可能性を議論します。

cic: Community Indicators Consortium



一般財団法人 CSOネットワーク
CSO Network Japan



日時 2020年 1 月 16 日 木

14:30～16:30

会場 横浜市立大学 金沢八景キャンパス

横浜市金沢区瀬戸22-2
(アクセス) 京浜急行「金沢八景駅」下車徒歩5分
シーサイドライン「金沢八景駅」下車徒歩5分
https://www.yokohama-cu.ac.jp/access/hakkei_campusmap.html

定員 100 名 ※同時通訳あり

受講料 2,300 円 (横浜市立大学の卒業生は割引になります)

お問い合わせ・お申込み

以下のウェブサイト、もしくはお電話（045-787-8930）、FAX（045-701-4338）にてお申し込み、お問い合わせ下さい
<https://www.yokohama-cu.ac.jp/ext/lib/20200116chiikisdgs.html>

企画監修：影山摩子弥（横浜市立大学大学院都市社会文化研究科教授）

主催：横浜市立大学地域貢献センター

共催：一般財団法人CSOネットワーク

助成：国際交流基金 日米センター（CGP）

後援：横浜市政政局

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

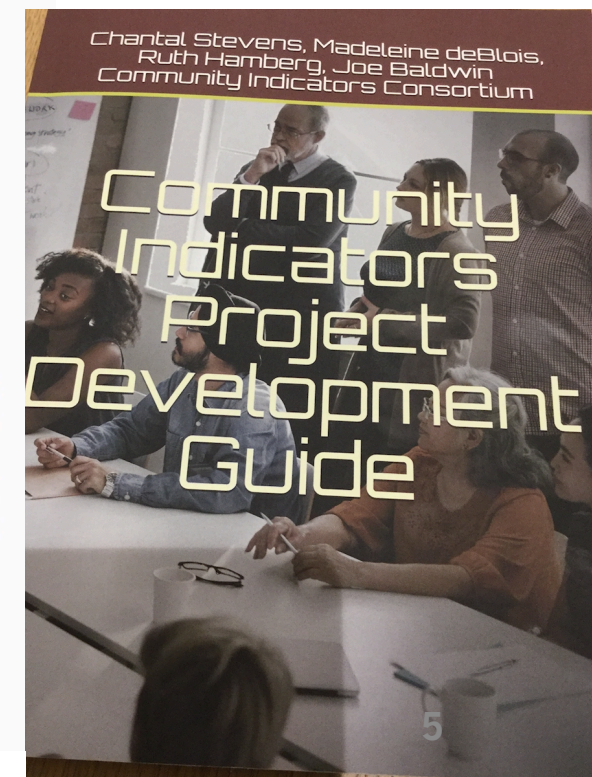
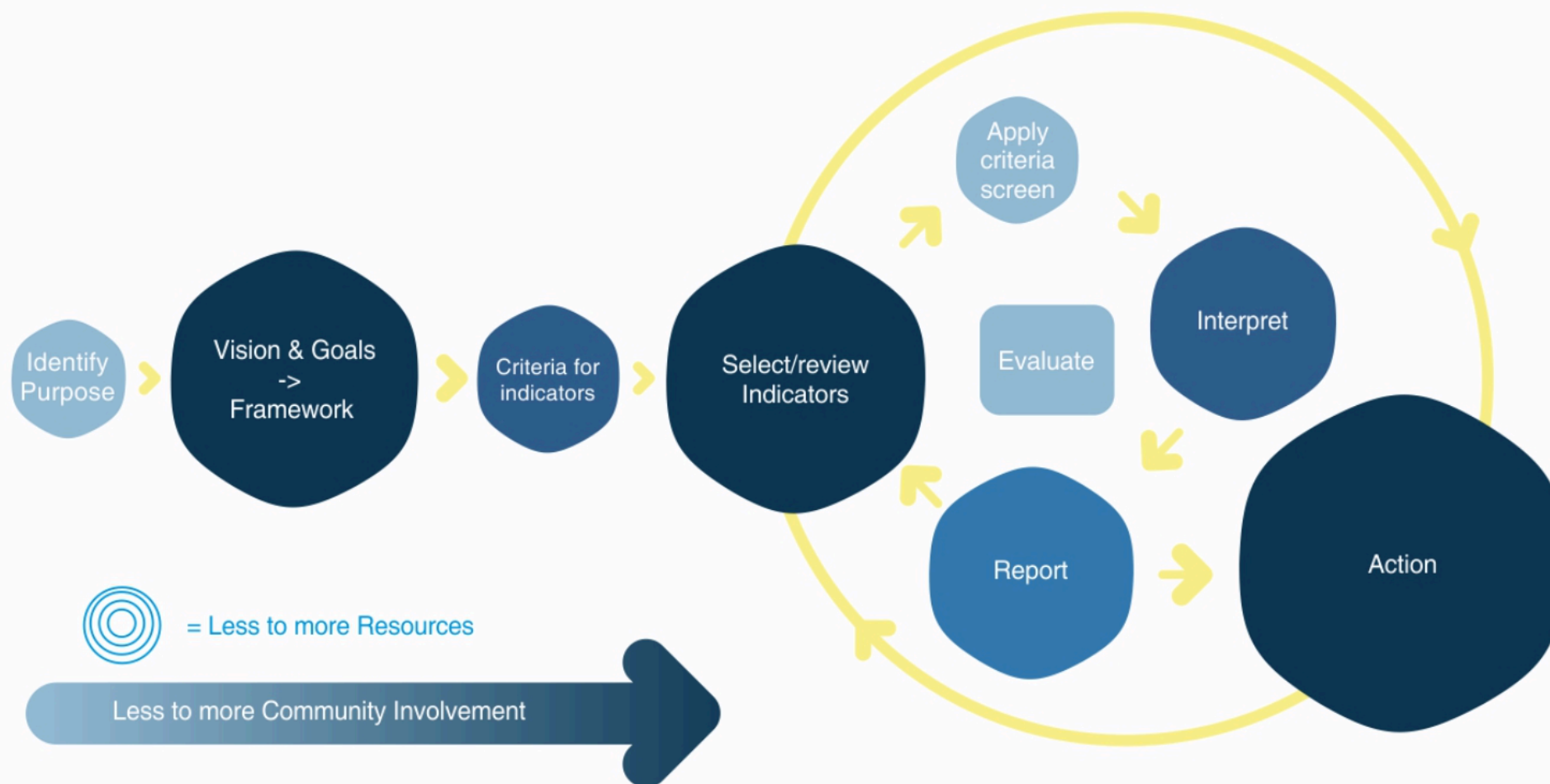
Conferences and interaction in Tokyo and local areas





Learned community indicators and engagement

Community Indicators Development Process



Launched CI-Lab.

1. Supporting community development by utilizing local vision, local goals and local indicators
2. Promoting community participation through visualizing community data and community actions
3. Involved in developing welfare action plan in Kurobe and local goals in other local areas
4. CSO Network Japan is in charge of Executive office



The banner for CI-Labo (Community Indicators Labo) features a collage of images showing community meetings and a presentation. The main text in Japanese reads: "みんなでつくる目標・指標で 持続可能な地域をつむぎ出します" (We create sustainable communities with goals and indicators made by everyone). Below this, it states: "CI-Labo は、参加型による地域の「見える化」で 住民が主体となる地域づくりの調査・研究・実践を支援します。" (CI-Labo supports investigation, research, and practice of community building where residents are the main body, through the 'visualization' of the community by participatory means). A flowchart shows the process: 見える化する (Visualize) → 気づく・考える (Notice/Think) → 深める・学ぶ (Deepen/Learn) → 参加する (Participate) → 行動・活動へ (To Action/Activity). At the bottom is a grid of 17 Sustainable Development Goals (SDGs) icons.

Chantal Stevens, Madeline deBorja, Ruth Hamberg, Joe Baldwin
Community Indicators Consortium

みんなでつくる目標・指標で
持続可能な地域をつむぎ出します

CI-Labo
Community Indicators Labo

CI-Labo は、参加型による地域の「見える化」で
住民が主体となる地域づくりの調査・研究・実践を支援します。

地域の風土や文化、産業や社会の構造に同じものはありません。だからこそ、そこで暮らす地域の方々により目標・指標をつくり、課題の解決に向けてみんなで動いていくことが大切です。

テキスト

見える化する → 気づく・考える → 深める・学ぶ → 参加する → 行動・活動へ

見える化から 気づき 参加し アクションへ

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

1 貧困をなくそう	2 飢餓をゼロに	3 すべての人に健康と福祉を	4 質の高い教育をみんなに	5 ジェンダー平等を実現しよう	6 安全な水とトイレを世界中に
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	8 働きがいも、経済成長も	9 産業と雇用創出を促進しよう	10 人や国を超えて公正で包摂的な成長を	11 住み続けられるまちづくりを	12 つぎの世代のために資源を賢く使おう
13 気候変動に具体的な対策を	14 海の豊かさを守ろう	15 陸の豊かさも守ろう	16 公正で包摂的な社会を	17 パートナリーシップで目標を達成しよう	



Community development model utilizing local goals and indicators in Kurobe



1. To increase the number of actors



2. To start through dialogue



3. To provide social welfare for all



4. To promote the strength of Under 40's



5. To achieve goals through partnerships



Social Welfare Council
of Kurobe City

Regional vision is "Realization of a Mutualistic Society".

Mutual Help in Japanese Community

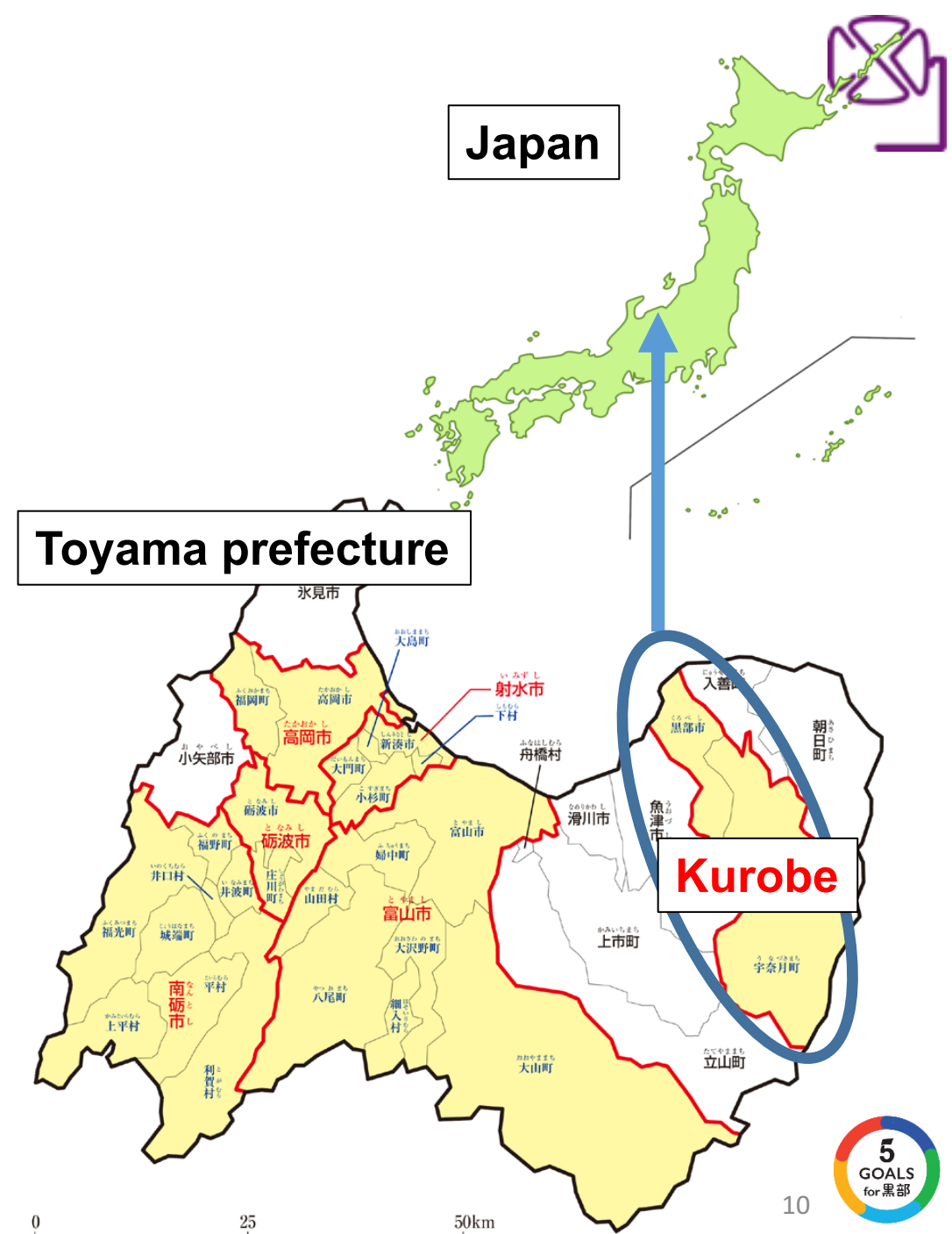


Fukushima, Kitakata-city, Yamato area





Hot spa & sight seeing tram



Japan

Toyama prefecture

Kurobe

5
GOALS
for 黒部



Clarification of community problems based on basic data

Depopulation & Aging

- 42,000 people → 32,600 in 2045
- Number of birth : 283 in 2017
(▲3.1% third consecutive decrease)
- Aging rate 30.5% in 2015 → 38.8% in 2045

Increase of isolation in community

- Decrease of mutual help
- Elderly care by the elderly

Increase of complexity in community problems

- Needs for professional nursing care
- Increase of complexity and Digitalization in work

Difficulty of collaboration

- Lack of collaboration with public sectors
- Lack of platform and opportunity

Lack of actors

- Lack of leaders
- Lack of community activists

Weakening in local community



Fukushima, Kitakata-city, Yamato area

Increase of Needs



Decrease of Local players





Direction of building community in Kurobe

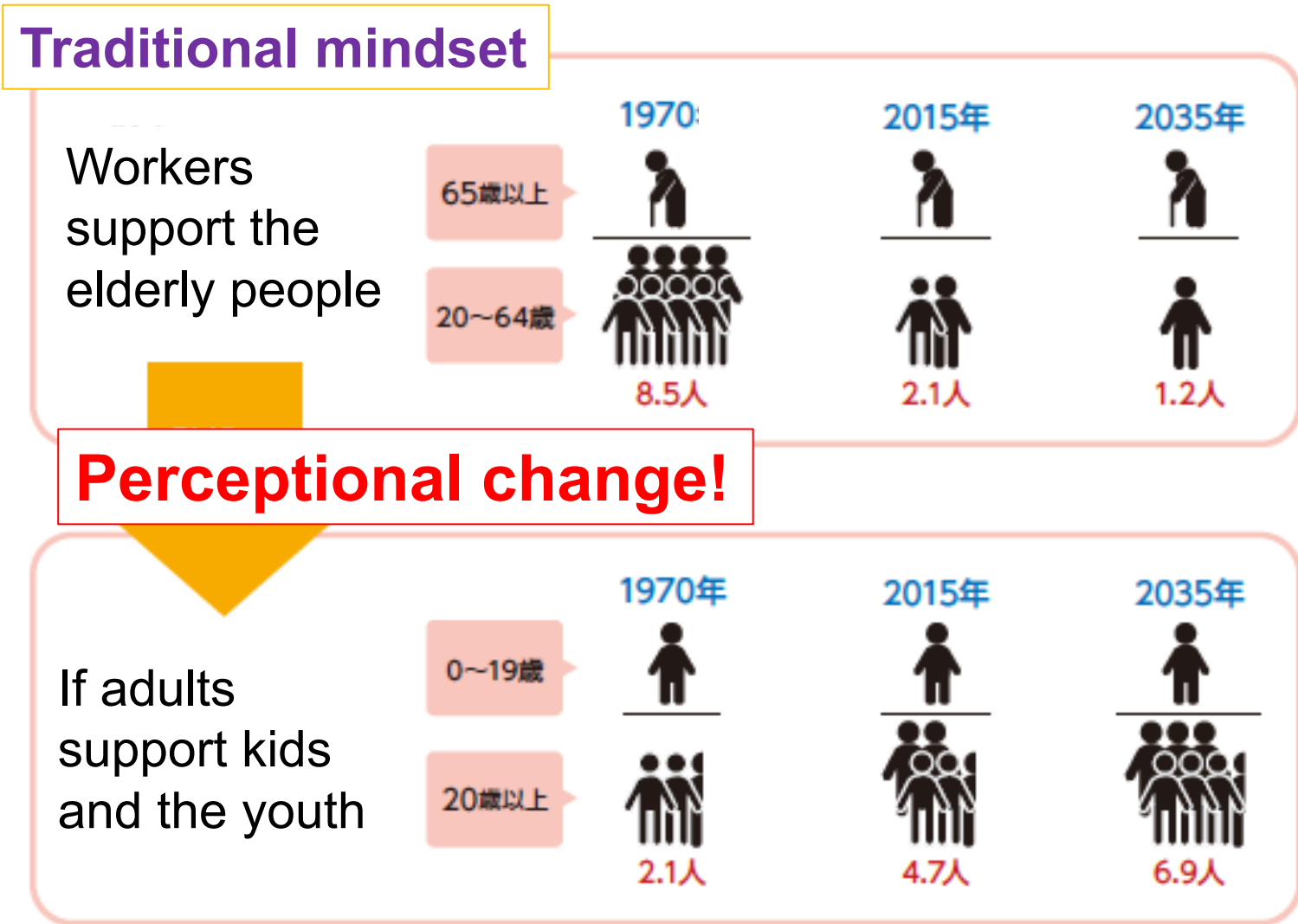
- Solving problems by ourselves on our resources in our community
- Raising community leaders and players
- Collaborating with multi-stakeholders
- Encouraging Participation in community





From Supporting the elderly to Supporting children

Baby Bust Aging Depopulation In Kurobe



Developing Community Goals by various people in community





Meeting for Authorization

Meeting for learning, communicating and community building

Developing Community Goals by various people in community



Simple and colorful action plan



1

活動人口を増やそう

2

話すことから始めよう

3

すべての人々に福祉を

4

U-40代の力を活かそう

5

パートナーシップで目標を達成しよう

5 GOALS for 黒部

この活動計画は、「お互いさまの社会の実現」を目指し民間の福祉活動団体や活動者が、ここから5年間、何を目標(ゴール)にどんなこと(ターゲット)に力を入れて取り組んでいくのかを示すものです。なお、本計画は「第3次黒部市地域福祉活動計画」をわかりやすくまとめたものです。

作成：第3次黒部市地域福祉活動計画策定委員会 事務局：社会福祉法人 黒部市社会福祉協議会

Kurobe Social Welfare Action Plan

黒部の福祉を良くする活動計画

Vision

お互いさまの社会の実現に向けて

Mission

誰もが安心して暮らせるやさしい福祉のまちづくりの推進

地域福祉に関わる全ての団体や人々と共に目指す5の目標と15の取り組み

1

活動人口を増やそう

2

話すことから始めよう

黒部市人口ビジョン(2015年策定)では、今後の人口は減少し、一方で高齢者の増加が見込まれます。そのような中で、地域活動を発展的または、維持していくためには、一人ひとりが2役、3役と様々な「出番と役割」を持つ必要があります。地域活動に参加する機会を増やし、人口減に反比例するように活動人口(地域活動に参加する人)を増加させていくことを目指します。

人と人とのつながり、信頼関係を構築するためには、知る場、学ぶ場、話し合う場、そして当事者同士が支え合う場づくりが必要です。話し合い、相互理解、情報を共有することから、新たな手立てが導き出され、それが行動促進へつながります。地域のこれからを自分たちで考える対話の場づくりを増やし、住民主体のまちづくりを目指します。

ICT(インフォメーション アンド コミュニケーション テクノロジー)……情報通信技術の略。パソコンやスマートフォン、スマートスピーカーなど、さまざまな形状のコンピュータを使った情報処理や通信技術の総称。

3

すべての人々に福祉を

誰もが安心して地域で生活していくことができる地域共生社会を実現するためには、「お互いさまの助け合い」の心を育てていく必要があります。

また、声なき声を拾い、時代の変化と共に生まれ続けるマイノリティーな立場にある人々を「誰ひとり取り残さない」の精神のもと支えていく社会の実現を目指します。

マイノリティー……社会的少数者または社会的少数集団。社会的少数派とは、その社会の権力関係において、その属性が少数派に位置する者の立場やその集団を指す。

誰もが安心して暮らせる社会的孤立の無い地域をつくる

1 「お互いさまの支え合い」を実現する

2 「声が届く地域、声を見つける地域」を目指す

3 小地域単位での地域課題解決力を高める

4

U-40代の力を活かそう

地域を支える支援者の高齢化が深刻な課題として挙げられている中、次世代に引き継ぐくみとして、地域での話し合いの場面において若者の声を意識して入れていく必要があります。人生100年時代を見据えて、40代以下が地域づくりに関心を持つ機会をつくり出し、参加する場を提供することで次世代の社会参加を促すことを目指します。

U-40代(アンダー40代)……「U(ユー)」はアンダー(under)の頭文字で、「下の」、「下に」を意味する。この場合は49歳以下を指す。

U-40代に地域福祉への関わりや参加の機会を増やす

1 小中高生の福祉に触れ合う機会を増やす

2 10代、20代、30代、40代の声を入れる

3 全世代で福祉体験教育に取り組む

5

パートナーシップで目標を達成しよう

複雑多様化する地域課題を解決していくためには、それぞれの強みや利害を明確に連携協働していくことが必要不可欠です。異業種や異分野でつながる多職種の間づくりや市内16地区間での連携体制の強化を目指します。

パートナーシップ……協力関係。共同。提携。プラットフォーム……動かすために必要な土台となる環境、土台となっているもの。コラボレーション……共に働く、協力するという意味で、共演、合作、共同作業、創的協力を指す語である。

様々な連携・共同で地域課題を解決していく力をつける

1 つなぐプラットフォームを整備する

2 異業種／異分野がコラボレーションする場づくり

3 地区同士の助け合い、連携を強化する

18

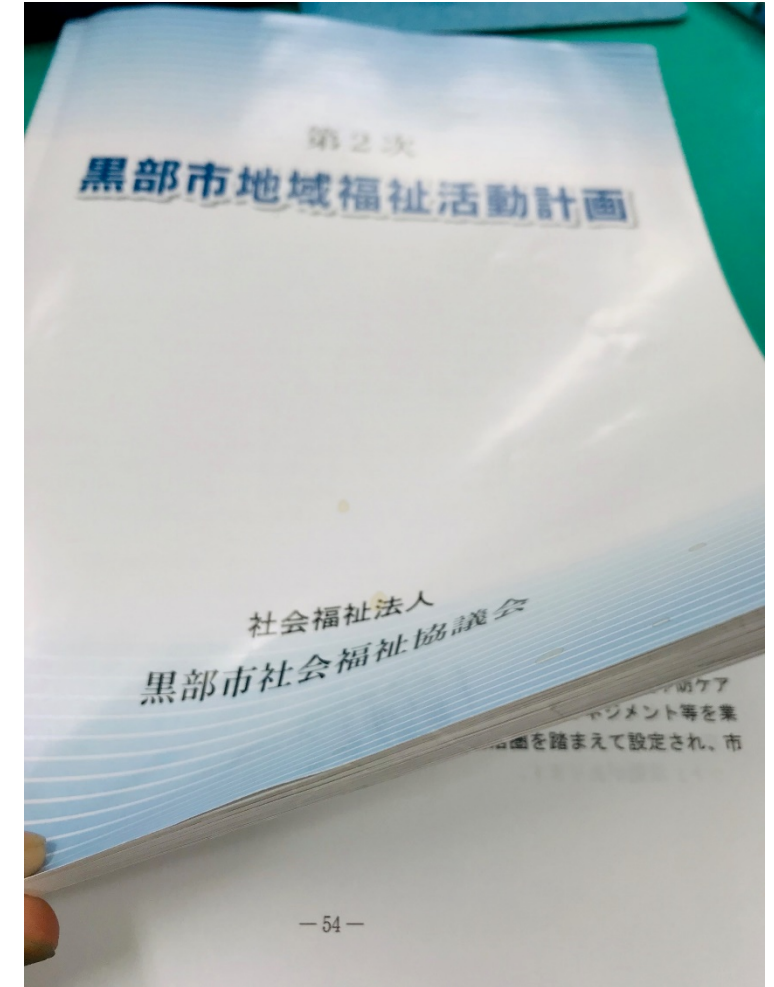
Most comprehensive plans are **too** voluminous



Comprehensive Plan of Toyama
577 pages



Development Plan of Kurobe
197 pages



The Second Kurobe Social
Welfare Action Plan **54 Pages**

Simple and colorful action plan



Kurobe Social Welfare Action Plan
黒部の福祉を良くする活動計画

Vision

黒部の福祉を良くする活動計画

Kurobe Social Welfare Action Plan

2019年度 — 2023年度

お互いさまの社会の実現に向けて

Mission

誰もが安心して暮らせるやさしい福祉のまちづくりの推進

1 活動人口を増やそう

2 話すことから始めよう

3 すべての人々に福祉を

4 U-40代の力を活かそう

5 パートナースhipで目標を達成しよう

5 GOALS for 黒部

地域福祉に関わる全ての団体や人々と共に目指す5の目標と15の取り組み



この活動計画は、「お互いさまの社会の実現」を目指し民間の福祉活動団体や活動者が、ここから5年間、何を目標(ゴール)にどんなこと(ターゲット)に力を入れて取り組んでいくのかを示すものです。なお、本計画は「第3次黒部市地域福祉活動計画」をわかりやすくまとめたものです。

作成：第3次黒部市地域福祉活動計画策定委員会 事務局：社会福祉法人 黒部市社会福祉協議会

1 活動人口を増やそう

黒部市人口ビジョン(2015年策定)では、今後の人口は減少し、一方で高齢者の増加が見込まれます。そのような中で、地域活動を発展的または、維持していくためには、一人ひとりが2役、3役と様々な「出番と役割」を持つ必要があります。地域活動に参加する機会を増やし、人口減に反比例するように活動人口(地域活動に参加する人)を増加させていくことを目指します。

2 話すことから始めよう

人と人とのつながり、信頼関係を構築するためには、知る場、学ぶ場、話し合う場、そして当事者同士が支え合う場づくりが必要です。話し合い、相互理解、情報を共有することから、新たな手立てが導き出され、それが行動促進へつながります。地域のこれからを自分たちで考える対話の場づくりを増やし、住民主体のまちづくりを目指します。

3 話し合う場、学び合う場、支え合う場をつくる

ICT(インフォメーション アンド コミュニケーション テクノロジー)……情報通信技術の略。パソコンやスマートフォン、スマートスピーカーなど、さまざまな形状のコンピュータを使った情報処理や通信技術の総称。

3 すべての人々に福祉を

誰もが安心して地域で生活していくことができる地域共生社会を実現するためには、「お互いさまの助け合い」の心を育てていく必要があります。

また、声なき声を拾い、時代の変化と共に生まれ続けるマイノリティーな立場にある人々を「誰ひとり取り残さない」の精神のもと支えていく社会の実現を目指します。

マイノリティー……社会的少数者または社会的少数集団。社会的少数派とは、その社会の権力関係において、その属性が少数派に位置する者の立場やその集団を指す。

4 U-40代の力を活かそう

地域を支える支援者の高齢化が深刻な課題として挙げられている中、次世代に引き継ぐくみとして、地域での話し合いの場面において若者の声を意識して入れていく必要があります。人生100年時代を見据えて、40代以下が地域づくりに関心を持つ機会をつくり出し、参加する場を提供することで次世代の社会参加を促すことを目指します。

U-40代(アンダー40代)……「U(ユー)」はアンダー(under)の頭文字で、「下の」、「下に」を意味する。この場合は49歳以下を指す。

5 パートナースhipで目標を達成しよう

複雑多様化する地域課題を解決していくためには、それぞれの強みや利害を明確に連携協働していくことが必要不可欠です。異業種や異分野でつながる多職種の間づくりや市内16地区間での連携体制の強化を目指します。

パートナーシップ……協力関係。共同。提携。プラットフォーム……動かすために必要な土台となる環境、土台となっているもの。コラボレーション……共に働く、協力するという意味で、共演、合作、共同作業、創的協力を指す語である。

誰もが安心して暮らせる社会的孤立の無い地域をつくる

- 「お互いさまの支え合い」を実現する
- 「声が届く地域、声を見つける地域」を目指す
- 小地域単位での地域課題解決力を高める

U-40代に地域福祉への関わりや参加の機会を増やす

- 小中高生の福祉に触れ合う機会を増やす
- 10代、20代、30代、40代の声を入れる
- 全世代で福祉体験教育に取り組む

様々な連携・共同で地域課題を解決していく力をつける

- つなぐプラットフォームを整備する
- 異業種／異分野がコラボレーションする場づくり
- 地区同士の助け合い、連携を強化する

Clear and awareness-raising website



黒部の課題 5 GOALS for 黒部 プロ Coming 探す soon Coming soon

黒部から世界を変える



Knowing, Learning, and Action !

5 GOALS for 黒部で 解決したい課題について知ってください。

- 黒部市の人口は1990年～2015年の間に**6.3%**減少
- 2020年には**40,000人**を割り込むと言われている
- **高齢化率**も、全国平均を**3.9**ポイント上回っている



人口減少や高齢化に伴って、ボランティア活動も減少

ボランティア団体数は過去5年間で**11%減**

ボランティア参加者数は過去5年間で**20%減**

第3次黒部市地域福祉計画（P17）

decline in population and volunteers



活動人口を
増やそう

地域で活動する人を増やし、
地域の担い手を育てる

➡ 詳しく見る

Increase the number of active people



活動人口を
増やそう

黒部市人口ビジョン（2015年策定）では、今後の人口は減少し、一方で高齢者の増加が見込まれます。そのような中で、地域活動を発展的または、維持していくためには、一人ひとりが2役、3役と様々な「出番と役割」を持つ必要があります。地域活動に参加する機会を増やし、人口減に反比例するように活動人口（地域活動に参加する人）を増加させていくことを目指します。

地域で活動する人を増やし、
地域の担い手を育てる

- 1 小さな地域で出番を増やす
- 2 住民主体の意識を育てる
- 3 世代間交流事業に取り組む



黒部の可能性

60%の住民が町内会や自治振興会等の身近な活動に参加している

町内会や自治振興会等の身近な組織にのべ6割を超える方々が参加しており、そのような組織が担う暮らしに密着した活動に、市内の中学生の多くが感謝の気持ちを感じています。

Many people engaged in community activities
children are grateful for those community activities

具体的な取り組み例

くろべボランティアセンター

ボランティアのマッチングや活動支援、研修、情報交換会など開催し、黒部市全体のボランティア活動推進のプラットフォームを担っている。



地区社会福祉協議会（16地区）

黒部市内の全地区にそれぞれ地区社会福祉協議会が設置されており、小地域単位での福祉活動を推進する「住民主体のまちづくり」の体制が取ら



Presenting Local activities

Letting young people know the plan

若い世代の地域活動・福祉への参加意欲が低い



20代の防災訓練参加率
10.8%



20代の災害時避難場所の認知率
46.2%



「福祉に興味がない」
と答えた中学生
52%



Among the 20's Lack of awareness of disaster prevention



U-40代の
力を活かそう

U-40代に地域福祉への関わりや
参加の機会を増やす

➡ 詳しく見る

Increase Participation of Younger Generations especially under 40's



U-40代の
力を活かそう

U-40代に地域福祉への
関わりや参加の機会を増やす

- 1 小中高生の福祉に触れ合う機会を増やす
- 2 10代、20代、30代、40代の声を入れる
- 3 全世代で福祉体験教育に取り組む

黒部の可能性

若者の地元愛が強い

黒部にずっと住みたい、あるいは戻って来たいと答えた中学生は**59.5%**、高校生は**60.6%**

■ 平成29年度シンクタンク事業調査報告書（P41、85）

Young people have a strong love for their hometown

具体的な取り組み例

第三次黒部市地域福祉活動計画策定委員会（5 goals for 黒部）

幅広い声を反映するため黒部市内の中高校生へのアンケート調査、20代から80代までの構成で男女割合は対等にし議論を進めた。

Presenting Local activities



地域を支える支援者の高齢化が深刻な課題として挙げられている中、次世代に引き継ぐしくみとして、地域での話し合いの場面において若者の声を意識して入れていく必要があります。人生100年時代を見据えて、40代以下が地域づくりに関心を持つ機会をつくり出し、参加する場を提供することで次世代の社会参加を促すことを目指します。

U-40代（アンダー40代）……「U（ユー）」はアンダー（under）の頭文字で、「下の」、「下に」を意味する。この場合は49歳以下を指す。



Using CLC's member's website as a reference

SA2020

STORIES DATA GET INVOLVED

COMMUNITY PARTNERS | Making our community stronger, together.

Find your passion, get involved.

Our amazing partners are organizations who work every day to make our community stronger and help us reach our goals for the future of San Antonio. These organizations all offer ways for individuals to connect and contribute. Find one that impacts the issues you care about, and help us work together to make the SA2020 vision a reality.

FILTER BY CAUSE

☐ Arts & Culture


☐ Civic Engagement

☐ Community Safety


☐ Downtown Development

☐ Economic Competitiveness


☐ Education




ACE Mentor Program of Greater San Antonio, Inc.




Alamo Metro Chorus




Alpha Home



Alzheimer's Association



American Cancer Society




American Heart Association

WHO WE ARE SERVICES GET INVOLVED BLUE CAT PIES

Volunteer

There are many ways individuals and groups can volunteer their time and talents to Any Baby Can. Volunteers help tremendously by helping minimize expenditures, therefore increasing the amount of good we can do in the community for a greater number of families. Volunteer today and make a difference to a family in need.



How do I become an ABC Volunteer?

24



Kurobe Social Welfare Action Plan



Visualizing Social Action
in Community

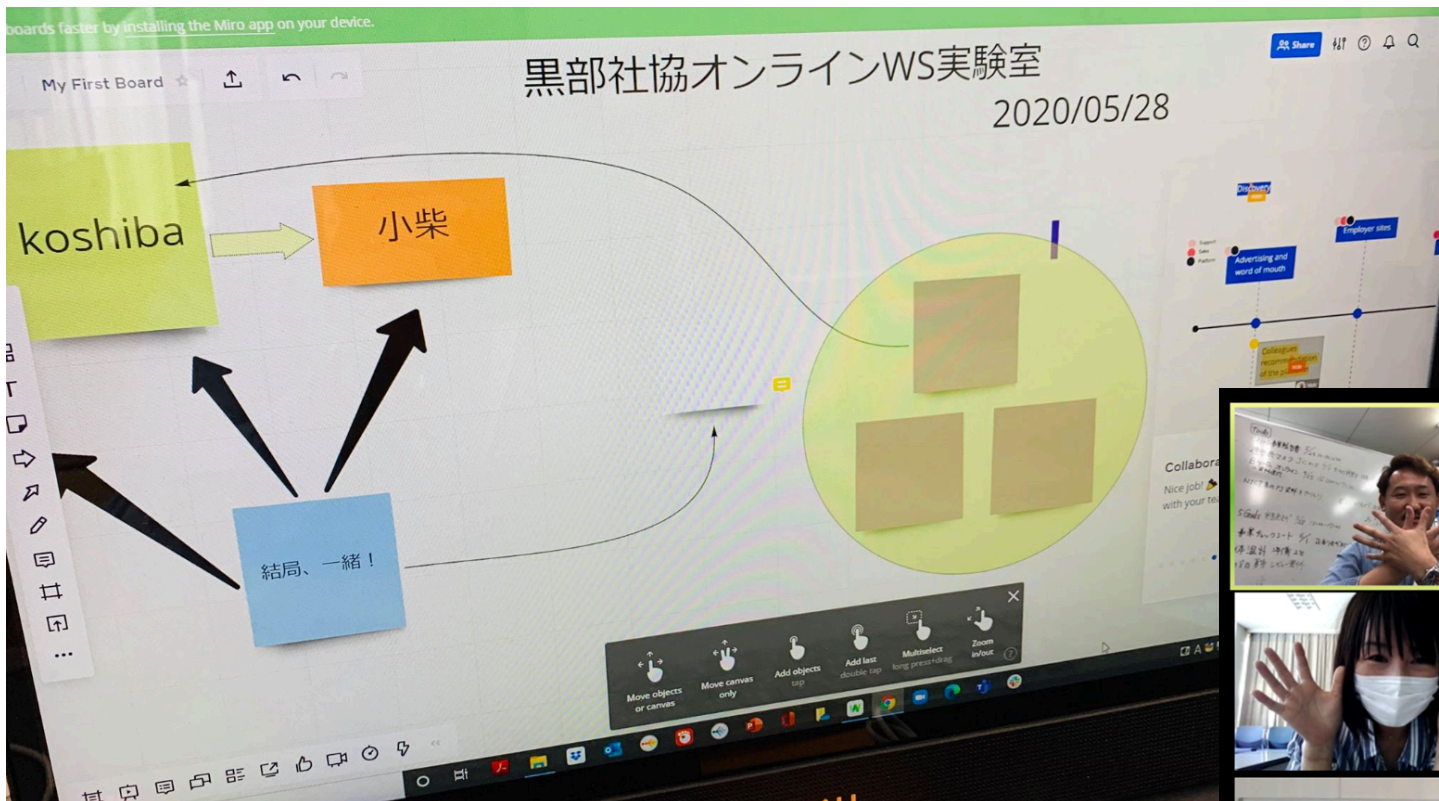
actcoin
for a better world



Visualizing Social Action
in Person

Working with App for motivating participation

Trying online workshop to create indicators





There are various types of community development in Japan



Nihonmatsu-city, Fukushima



Joetsu-city, Niigata



Kitakata-city, Fukushima

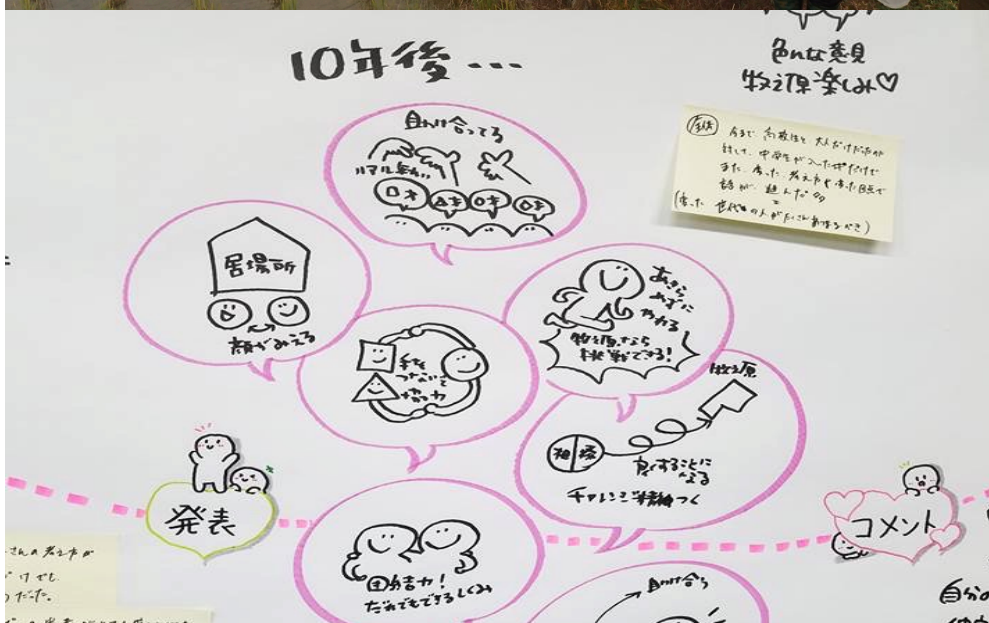


Shizuoka-city

Discussion and workshop on how to improve sustainability in Community



Kochi, Otsuki-town



Shizuoka, Makinohra-city



Community development model referring CIC's efforts

- **Goals: Sharing the common direction**
- **Index: Motivating leaders and players in community**
- **Visualizing: Enabling to be interested in communities**
- **Participating in Web: Prevailing beyond small workshop**



Passing on mutualistic society to the next generation



Fukushima, Nihonmatsu-city, Towa area



Raising soy beans program in Nihonmatsu, Fukushima



Interview of Immigrant in Nihonmatsu, Fukushima



Thank you !

mhasegawa@csonj.org